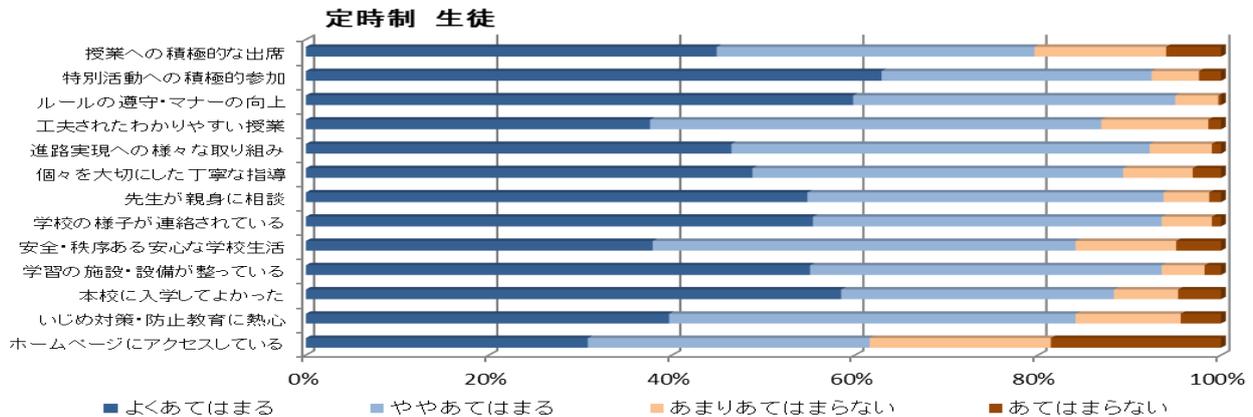


令和4年度 学校評価結果

1 生徒アンケートから

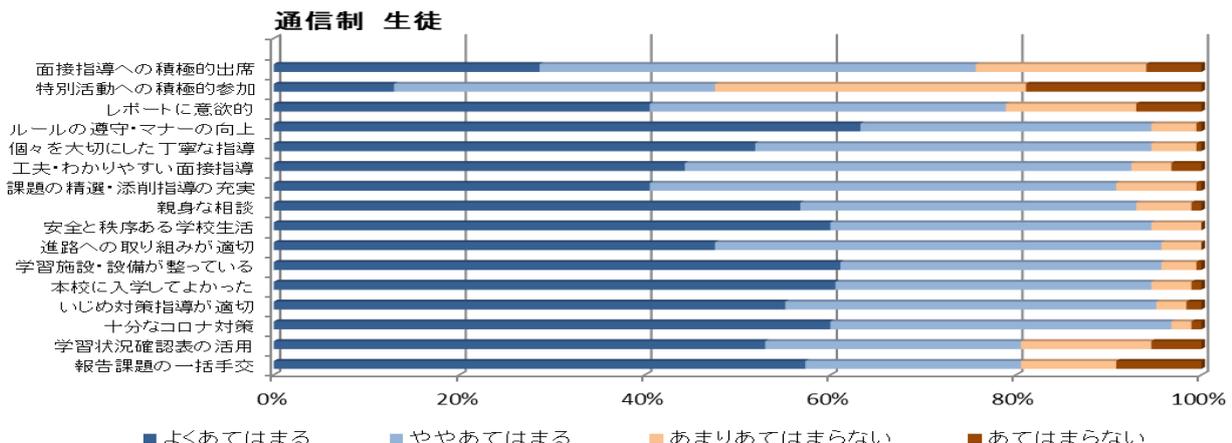
(1) 定時制

肯定的な評価（「よくあてはまる」・「ややあてはまる」の合計）が、13項目中11項目で80%以上という高い割合で安定している。特に「ルールを遵守し、マナーの向上に努めている」の項目は、95.0%の生徒が肯定的な評価をしている。これに続いて「先生が親身に相談に応じてくれる」「学校生活がよく連絡されている」「学習の施設・設備が整っている」が90.0%以上の高評価を得ている。また、「生徒一人ひとりを大切に、丁寧な指導が行われている」「進路実現のために取組が行われている」「わかりやすい授業が行われている」「特別活動に積極的に参加している」といった生活や学習指導などに関わる項目の肯定的な評価は80%を超えており、生徒にとって良好な教育環境が実現していると考えられる。「本校に入学して良かった」についても、前年をさらに3%近く上回り88.3%の生徒が肯定的な評価しており、引き続き一人ひとりを大切に、丁寧な指導に努めていきたい。一方、「ホームページにアクセス」の項目は、肯定的な評価が61.6%で、前年から3%ほど上昇した。ホームページでは学校生活に関する重要な情報が発信されているので、引き続きアクセスを促すように指導していきたい。



(2) 通信制

肯定的な評価が、16項目中11項目で90%以上と非常に高い。今年度、新たに質問項目に加えた「報告課題の一括手交」と「学習状況確認表の活用」は、ともにほぼ80%の肯定的な回答が得られた。一方、肯定的な評価が80%を切った項目のうち、「レポートに意欲的」(78.9%)は昨年度より5.5%上昇し、指導の成果が反映されているといえよう。「面接指導への積極的な出席」は昨年度(75.4%)とほぼ同じ75.7%であった。しかし、「特別活動への積極的な参加」(47.6%)は、昨年度より5.0%近く下降し、他の項目と比較すると、低い結果となっている。これは、コロナウイルス対策で、特別活動に関わる行事の中止、形式変更となったことに加え、長く続いた行動制限なども人間関係の構築に少なからず影響を与えているのかもしれない。令和2年度からコロナウイルス対策の項目を新たに加えたが、95%以上の生徒が肯定的な評価をしている。「入学して良かった」の項目では肯定的な評価が前年を3%ほど上回り、極めて高い数値(94.6%)を示しており、総じて生徒にとって良い環境が実現していることがわかる。



2 保護者アンケートから

ほぼ全ての項目において、肯定的な評価が80%を超えていることから、定時制・通信制の特色を踏まえた学習指導・進路指導・生徒指導には、おおむね理解が得られていると考えられる。特に、定時制・通信制とも、保護者との面談・連携などの項目において肯定的な評価が90%以上となっており、学校に対する信頼の高さがうかがえる。また、通信制で2年前から新たに加えたコロナウイルス対策の項目でも、高い評価(95.9%)となっている。

これに対して、定時制で肯定的な評価が80%を下回っている項目は、前年度より2項目増え、合計3項目であった。「いじめ対策・防止教育が適切」(64.9%)、「進路希望実現のための取組が計画的に行われている」(76.7%)、「諸会費などの納入についてきちんと通知されている」(77.9%)である。本校では、組織的かつ適切に教育活動を展開し、指導の充実を図っている。今後、この指導の実態を保護者にうまく伝える方策の工夫・改善が課題である。

一方、通信制で肯定的な評価が80%を下回っている項目は、「学校行事に参加したい」(55.1%)である。この項目は、一昨年度(66.3%)・昨年度(57.4%)から下降傾向が続いている。今後は、保護者の来校の機会をさらに増やして教育活動の理解をいっそう求め、その上で、保護者の学校行事への参加を促していきたい。

なお、保護者アンケートの回収率は、生徒の回収率と比べ著しく低い。保護者の意向や関心等を正確に把握するためにも、回収率を高めるための方策を考える必要がある。

総じて、本校の教育活動に対しては、生徒同様に保護者にも支持されており、学校の設置理念との合致が認められる。今後、さらに理解を得られるように、教職員及び保護者が一体となって生徒たちに向き合うよう努めながら教育活動を展開していきたい。

